

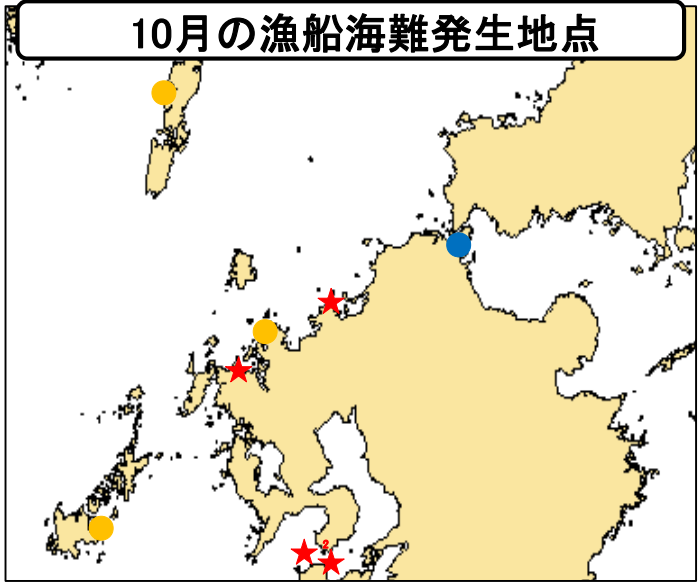
令和4年10月発生  
七管内漁船海難 計9隻

令和4年10月累計 68隻 (前年76隻)  
漁船海難発生隻数は前年に比べ **8隻減少**

漁船海難隻数 (速報値)	
衝突	★ 5
乗揚	● 3
浸水	● 1
合計 9隻 (昨年 5隻) 死亡、行方不明者: 0名	

	県別内訳	
	10月	令和4年累計
山口県	0	8(10)
福岡県	2	18(12)
佐賀県	1	8(4)
長崎県	6	26(39)
大分県	0	8(11)
合計	9隻	68隻 (76隻) ( )は昨年同月

累計死亡・行方不明者数  
6名 (令和4年10月末日現在)



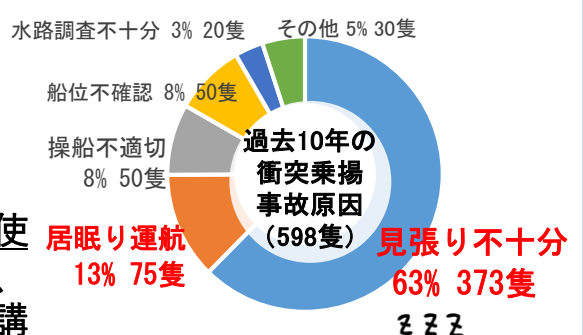
## 衝突・乗揚事故多発！

### 事故を防止するために

#### 見張りの徹底！

衝突・乗揚事故の原因の約6割は「見張り不十分」によるものです。10月は、特に操業中の事故が立て続けに発生しました。魚群探知機の使用時や投網作業時等、作業に没頭して見張りが疎かになりがちです。常時適切な見張りを励行し、衝突・乗揚事故を防ぎましょう。

**操業中でも気を抜かん！**



#### 居眠りに注意！！

居眠り運航の多くは、操業後の帰港中や自動操舵使用中に発生しています。もし、眠気を感じた時は、「窓を開けて換気」「体を動かす」などの対策を講じる他、普段から十分睡眠をとり、睡眠不足が生じないように規則正しい生活習慣を心掛けましょう。



#### 自動操舵使用時は注意！！

自動操舵装置は、操船の負担を軽減し見張りに専念するためのもので、他船や障害物を避ける機能はありません。自動操舵中、他の作業に没頭すれば、見張りが疎かになり、衝突・乗揚げ事故に繋がります。自動操舵使用中であっても、常時適切な見張りを行いましょう。

また、次の場合は、手動操舵に切り替え安全に操船しましょう。

- ①港内 ②船が多い海域 ③荒天、視界不良時
- ④周囲に浅瀬等がある場合 ⑤潮流が強い狭水道 ⑥他船への接近時 ⑦変針時